⑩日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

⑩ 公 開 特 許 公 報 (A) 平3-251452

60Int.Cl.5

識別記号

庁内整理番号

❸公開 平成3年(1991)11月8日

B 32 B 33/00 3/30 5/18 7141-4F 6617-4F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

ᡚ発明の名称 化粧材

顋

创出

②特 願 平2-50754

②出 願 平2(1990)3月1日

⑦発明者中河原満⑦発明者鳥海臣吾

東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号

明細響

1. 発明の名称

化粧材

2. 特許請求の範囲

基材の上に発泡シートを設け、該発泡シートの上にグラビア印刷層を設けて、該印刷層のインキの中の溶剤により前記発泡シート中の発泡セルを破壊して凹部を形成することにより印刷層の絵柄に対応した凹部を設けた化粧材。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本発明は表面に絵柄に同調した凹部を設けることにより光沢差を与えて視覚的な立体感、ボリューム感を顕現する化粧材に関するものである。

<従来の技術>

従来よりアクリルエマルジョン系の発泡性樹脂の機械発泡により基材表面に凹凸を形成する技術はあるが、要面性(平滑性、風合等)及び物性面(要面強度等)などの問題で内装材として使用で

- 1 -

きるものは出来なかった。

また、発泡性シートの表面に、ケトン系溶剤を 主成分とする塗料を用いて印刷等により模様を形成し、乾燥後、発泡させて模様以外の部分を膨出 させて凹凸模様を形成したものとして特開昭56-7 2026号がある。

<発明が解決しようとする課題>

しかし、上記特開昭56-72026号のものは、発泡時に特定のアミンとアゾジカルボンアミドとケトン系強料の結合によりアゾジカルボンアミドの分解ガスを減少させて凹凸模様をつけるようになっているため、印刷後に発泡させなくてはならず、発泡残渣により模様の色のばらつきが生じるという問題がある。

<課題を解決するための手段>

本発明は上記課題を解決するために考えられた もので基材の上に発泡シートを設け、 該発泡シートの上にグラピア印刷層を設けて、 該印刷層のインキ中の溶剤により前記発泡シートの中の発泡セルを破壊して凹部を形成することにより印刷層の

-361-

絵柄に応じた凹部を設けた化粧材である。

< 作用 >

本発明は以上の構成になっており、発泡シート 表面に印刷されたインキ中の溶剤により発泡セル が破壊され、模様以外の部分が膨出した状態で残 り、模様に同調した凹凸が形成される。

< 実施例>

なお、基材として上配裏打紙の他、不機布を使用することもできる。また、木目模様を設けた上に全面に架橋型の水溶性アクリル樹脂を塗布すれ

- 3 -

む)

- (2) インキの乾燥速度(遅い方が深く凹む)
- (3) インキの種類(ケトン系が深く凹む)
- (4)発泡シートの発泡倍率(大きい方が深く 凹む)
- (5)発泡シートの架構性(架橋が弱い方が深く凹む)
- (ロ)また、発泡シートのエマルジョンの配合 処方によって、以下のような機能を持たすことも でき
 - (1) 結構防止効果
- (2) 難燃性(多量の無機材、例えば、水酸化 アルミニウムを配合)
 - (3)耐光性
 - (4) 耐汚染性 (シリコンを配合)
 - (5) 吸音性(発泡セルを完全連泡にする)
- (ハ) すでに発泡したシートに印刷層を設けて あるため、模様の色が安定しており、また、繊細 な凹み表現が可能で階調表現が優れている。

ば表面の耐性が向上する。

配合例

7	ŋ	ij	ル	酸	I	ス	テ	ル	100	部	
充	塡	剤							120	部	
架	概	剂							3	部	
ブ	ם	ッ	牛	ソ	グ	防	止	剤	4	部	
报	水	刑							3	部	
発	泡	削							3	部	
整	泡	剤							3	部	
增	粘	剤							0	. 5	1
分	散	剂							1	. 5	î
تهوا	ル	割	i						1 (韶 (

<発明の効果>

本発明は以上の構成になっているので次のような優れた実用上の効果を有する。

(イ)模様を形成するインキ中の溶剤で発泡セルを破壊して凹凸が形成されているので、次の諸条件を変えることにより、種々の階調表現が可能である。

(1) 印刷するインキの量(多い方が深く凹

- 4 -